THE KOBECCO

3 ★★★ 創刊15周年記念号

MARCH 1976 NO. 179

神戸っ子

神戸っ子　昭和40年1月20日第三種郵便物認可
昭和51年3月1日印刷　通巻179号
昭和51年3月1日発行　毎月1回1日発行

'76
あなたとベニヤを結ぶ
ファッションの絆を大切に——

LADIES SHOP
Beniya
the ladies fashion of the four season. creative beniya

神戸
三宮センター街　332−2135
ベニヤエルベ(センタープラザ)　332−2829
さんちかレディスタウン　321−2678
大阪
梅田阪急三番街　372−8093
上本町近鉄百貨店２Ｆ　779−1231
ミナミ地下センター　213−6128
東京
日本橋東急百貨店１Ｆ　211−0511
渋谷別館パルコ３Ｆ　476−2348

PHOTO／藤原保之　モデル／林あや子

ミキモトのシンプルなダイアモンドリング。

世界の宝石店

MIKIMOTO

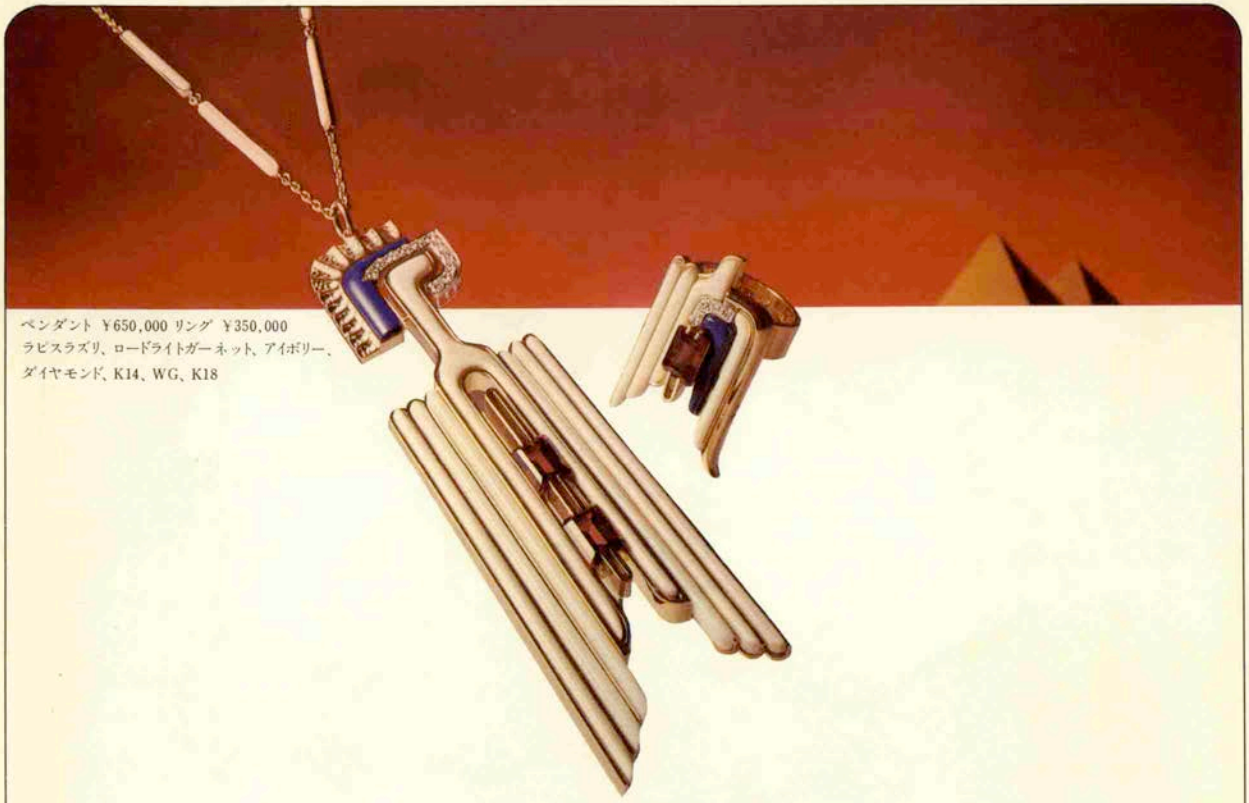
神戸店＝三ノ宮－神戸国際会館TEL.221-0062
大阪支店＝堂島－新大ビル　TEL.341-0247
京都支店＝河原町蛸薬師BAL TEL.241-2970
大阪＝阪急・阪神・高島屋・松坂屋・近鉄上六店
本店＝東京・銀座　TEL.535-4611
株式会社ミキモト　©1976-3

花

シリーズ③

MASARU NAKANISHI

中西 勝（二紀会）



ペンダント ¥650,000 リング ¥350,000
ラピスラズリ、ロードライトガーネット、アイボリー、
ダイヤモンド、K14、WG、K18

魅惑して、飛ぶ。

クレオパトラにさぞ似合ったであろうこの鳥、黒髪の女人につけられてこそ、その真価を発揮する威厳ときらびやかさ。世界のパーティで東洋の女王の座につくのは誰。

TASAKI PEARLS
田崎真珠

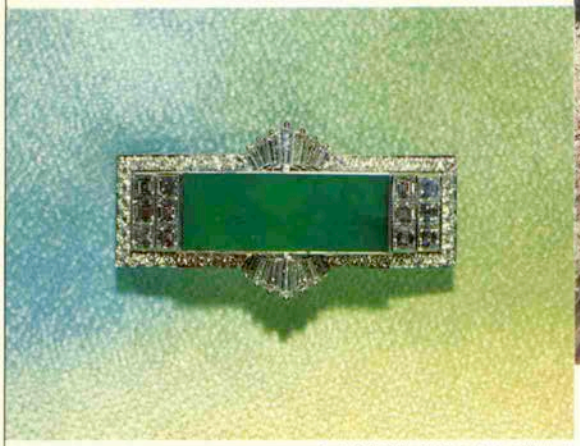
■本社／神戸市葺合区旗塚通6-3-10 Tel.231-3321■神戸外商部／神戸市葺合区旗塚通7-1-7 旗塚ビル Tel.231-3321■パールファーム神戸／神戸市灘区鶴甲3-12-41 Tel.882-0107■さんプラザ店／神戸さんプラザビル3F Tel.391-4085■大阪支店／大阪市南区安堂寺橋通3-38-2 南大和ビル Tel.253-0165■大阪プラザ店／大阪ホテルプラザ内 Tel.458-2449■福岡支店／福岡市中央区赤坂1-11-13 大稲ビル Tel.781-5161 カタログご希望の方は〒107 東京都港区赤坂1-3-5 田崎真珠販売企画室までご請求下さい。

あなたの真珠はパールマークの店で

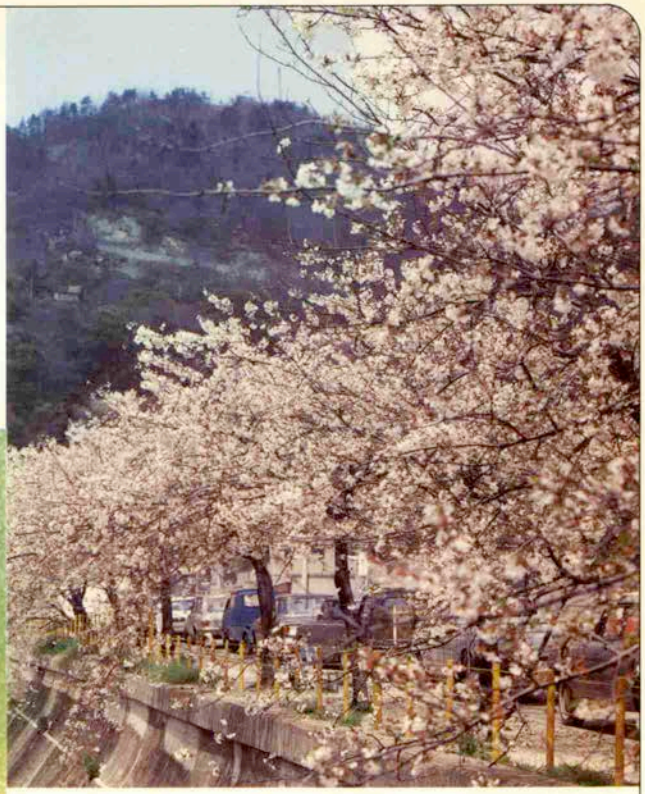
FANTASY KOBE〈3月〉

はる。あなたは語る

花咲く　その一瞬を



白金台翡翠無地板ダイヤ入帯止め



宝飾店

Tajima

タジマ

元町２丁目　ＴＥＬ331－5761代表

タジマでは宝石の鑑定を無料でご相談に
応じておりますのでお気軽にご利用下さい。
定休日は水曜日です。

神戸っ子'76

「神戸っ子」15周年記念第5回
ブルーメール賞音楽部門受賞者

冷静緻密な音楽評論

小石忠男〈音楽評論家〉

カメラ・米田定蔵

「子供の頃から音楽が好きだった」――戦後、ヴァイオリンを習うつもりでエルネスト・トマシッチ氏を訪れたが「評論家になりなさい」とヴァイオリンの実技よりも評論家としての基礎を教えられる。ヴァイオリンしか教えない師から音楽理論の指導を受けたのは小石氏ひとりであり、今となってはその時が音楽評論家として歩む最初の出合いとなっている。その後、ラジオ神戸（現ラジオ関西）のプロデューサーとしてクラシック音楽番組を担当。その頃からすでに音楽評論のペンを握っていた。以来、関西の音楽評論の雄として評論活動が続き、今や全国的。音楽誌に演奏会評やレコード評の執筆のほか、各種コンクール審査員や音楽関係の委員と大忙し。

氏の評論は「該博な知識と理解のうえに極めて客観的に冷静緻密な観察と公正妥当な立場」との評価を受けている。音楽に限らず評論としては当然の姿勢かもしれないが、それを堅持することはムツカシイ。そのことは、今回の受賞の要因の一つとなった、自己の主張を自信をもって述べている著書『世界の名指揮者』（全二巻）に明らかに表われている。

世界の一流品をあつめたトアロード<クロス>

スペイン製 ウォールナッツ材飾り棚

靴と舶来雑貨

クロス

神戸トアロード TEL 391−1781
神戸生田筋 TEL 331−5983
さんちかレディスタウン TEL 391−2562

神戸っ子'76

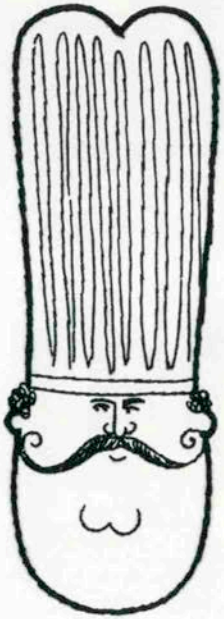
「神戸っ子」15周年記念第5回
ブルーメール賞文学部門受賞者

したたかな生活者の眼

三宅　武〈「第三紀層」同人〉カメラ・米田定蔵

詩とは何であるか。詩は、私にとって、生きてきた時間に対する領収書のようなものである。（第二詩集「赤いカブトムシ」のあとがき）そして〝うらみ節〟である。一九三四年神戸生まれ。二十二歳のときに定時制高校を卒え、或る印刷会社に就職。やがて、別の印刷会社へ。そして、倒産。そのあとを自分で引き受ける。この間、苦労のしどおし。二十六歳から三十八歳までのことだ。下請けのまた、下請けという零細企業にいると恵まれないことが多い。「色々と腹の立つこともある」それを書きたい。「無力だが書かないわけにはいかない」それが〝うらみ節〟となる。地面を這いずり廻る虫の眼で現実を凝視する。それが一篇の詩となる。子供が眠ってしまった夜中、黒々とした文字を生活のなかから引っぱり出す。現在、小学校児童の合同詩集「はぐるま」の編集に携っている。〈燐〉〈木賃宿〉〈位置〉の同人を経て現在〈第三紀層〉同人、現代詩神戸研究会々員。一九六七年第一詩集「王さまの歌」、七五年第二集「赤いカブトムシ」出版。〝今度生まれるときもやっぱり神戸〟というほど神戸が好きなのだ。東灘区在住。

（私学会館にて）



入学祝、就職祝、歓送迎会等のパーティーに御利用下さい、吟味した材料と一流の腕をもっておまち致しております。

ナイトクラブ・レストラン

神戸 **北野クラブ**

神戸市生田区北野町1丁目64 TEL(078)231－2251

レストラン

神戸 **ブラン ドゥ ブラン**

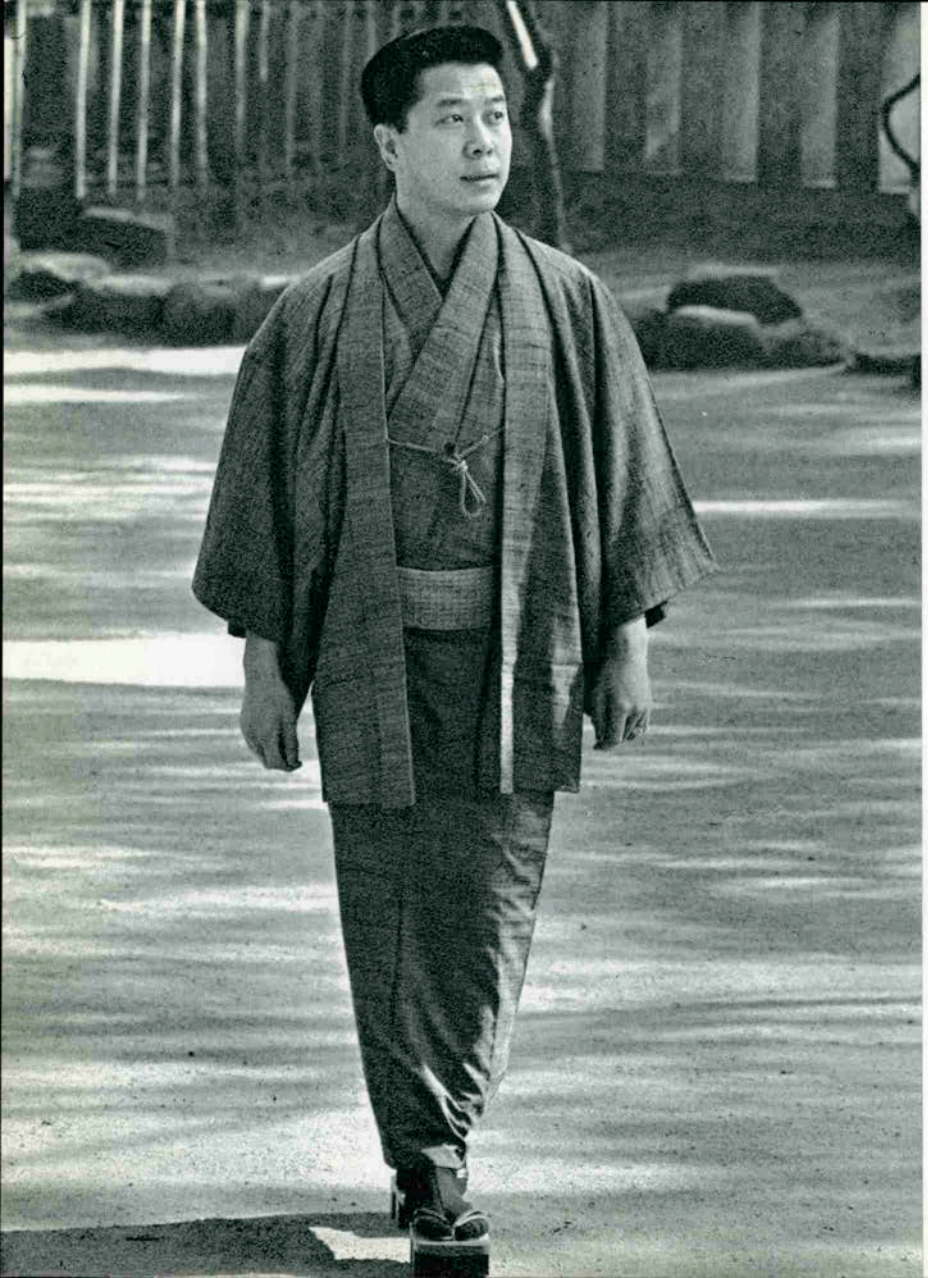
神戸市生田区京町77－1神栄ビル7F TEL(078)321－1455

東京 レストラン **ストックホルム**

東京都港区六本木6-11-9 スウェーデンセンター Phone 403-9046

年中無休

駐車場有



神戸っ子'76

「神戸っ子」15周年記念第5回
ブルーメール賞古典芸能部門受賞者

今が青春時代

花柳吉叟〈邦舞家〉

カメラ／米田定蔵

氏子だという湊川神社の境内を歩く和服姿の吉叟さんは今年43才。4才が初舞台で、幼いときから花柳芳暲師のもとで修業し、邦舞の基礎を磨いてきただけに腕は確かなもの。母は花柳芳美さんと邦舞ファミリーだ。

福原育ちのせいか、ストリーのあるドラマチックなものが好き。芳暲師は、「それぞれ身体が違うように個性が違う、だから自分の個性を生かして、伸び伸びとやったらいい」といわれたそうだ。道行であれ、心中であれ、人間の極限状態の踊りに挑戦したいという芳叟さんは「修業時代がすぎて今がぼくの青春時代です」と若々しい。

創作舞踊「蘭夫人」「黒い血」そして「ふるさと・いん・にっぽん」など民謡集にも力をそそいできた。

今年は「秀美会」「神戸創作舞踊の会」と地元での本番が待っている。

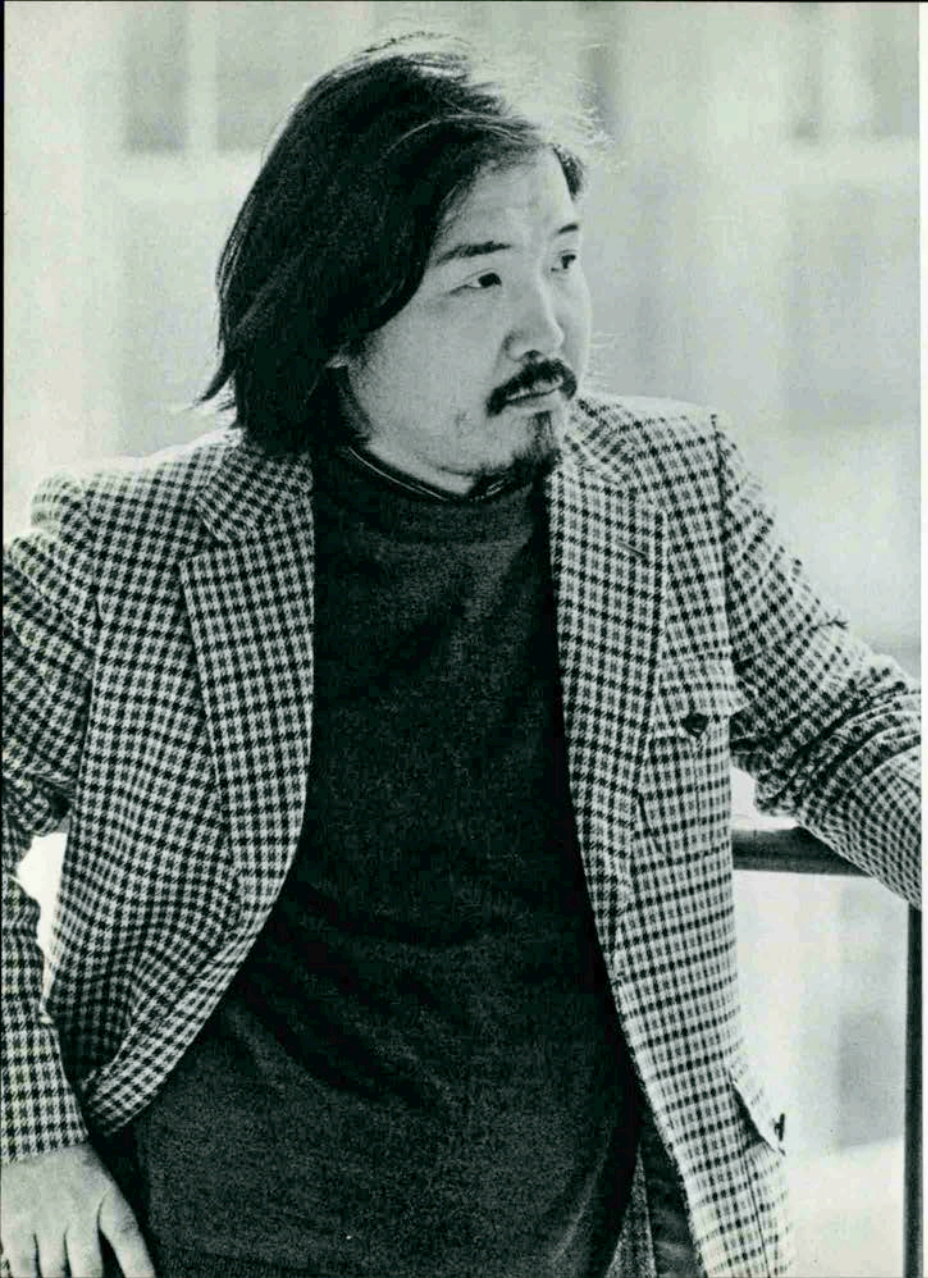
女性のためのトータルビューティサロン

神戸★レディスサウナ

神戸三宮・農業会館向かい　神戸サウナビル2F

TEL 078(321)4742・4741

サウナコース平常料金／¥1400
マッサージ　オイルマッサージ
全身パラフィンパック　美顔術
和田式美容体操教室／毎木曜日



神戸っ子'76

BM 神戸っ子15周年記念第5回
ブルーメール賞美術部門受賞者

実際の空間と虚の空間

斉藤 智 平面／カメラ・米田定蔵

〈行為〉と〈物象〉のはざまにきらめく創造思考——と赤根和生氏の評する斉藤智の世界は、実にユニークで人を魅了する力のあるものだ。当の本人は「僕の発想は単純なんです」と少々テレ気味に話をなさるが、その実、空間とものとを見る目には厳しいものがあることを感じさせてくれる。

目の前が塩屋の海という風光明眉な自宅のほんの一隅、あるいは六甲の山ふところに建つ神戸大学の研究室のそばの廊下、そんなものがこの人のモチーフになるのだから面白い。「できるだけありふれた状態みたいなものを、無のおおいをとるというか、はっきり見たいですね」「あるがままの状態とは?」などをポツリポツリと話される。その姿に人柄の良さをにじませながら——。東京芸大時代は小磯良平教室に学んだという。神戸に住んで九年、もうすっかり神戸っ子だ。日本美術界で高く評価される現代作家である。

垂水区在住　神戸大学助教授　三十九才。

神戸の中の情景《3》

文・林田重五郎
絵・小松　益喜

北野の小径

またタクシーをトア・ロードへ走らせてしまう。上りつめた外人クラブの前で下りて、足は北野町へ。

マンションやホテルが異人館に取って代ってしまったと嘆かれている北野町、ただ小径（みち）だけは昔と変わらない。幅一メートルあるかなし、くねくね回わって通りと通りを結ぶ。

クラブから直ぐ東のセメントの小径をコツコツと登ってゆくと、右手の白い、おとぎの国のようなマンションの窓で金髪の幼な児のはしゃぐ声。左手の谷間にはキルビイ・ホールの屋根、その前の車から白人夫婦が現われ毛皮が光る。小犬にほえられて東へ曲がり、通りに出ると、飾窓に操（あやつ）り人形の群が遊んでいる。メルヘンの国だ。

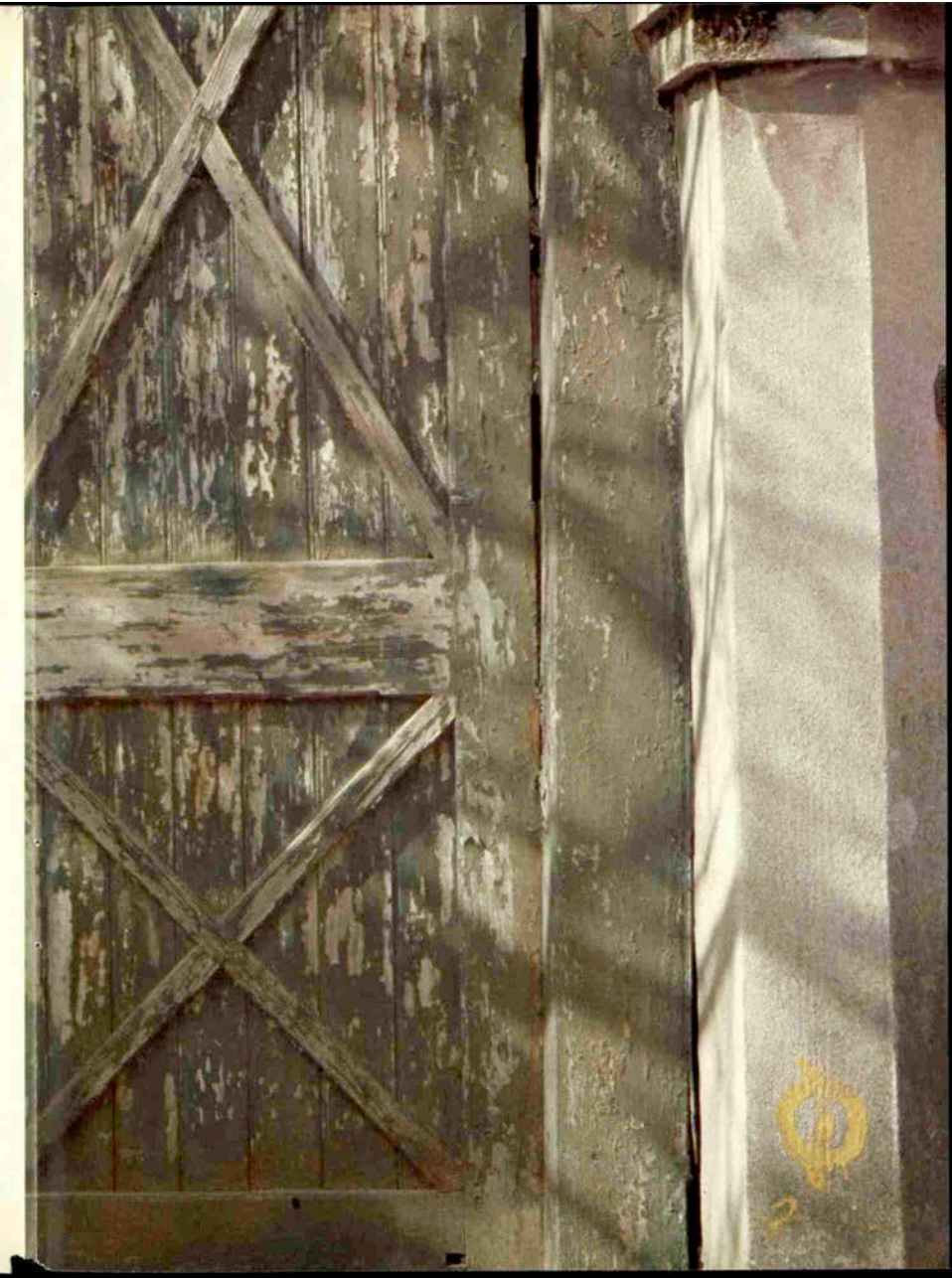
また小径に入って緑色の耳飾りをした白人のおばさんの後をくだる。シュロの葉が肩をなで、外国語の会話が聞こえ、救命ブイに社名を入れた看板が揺れ、僅かに残った異人館の屋根が見えた。

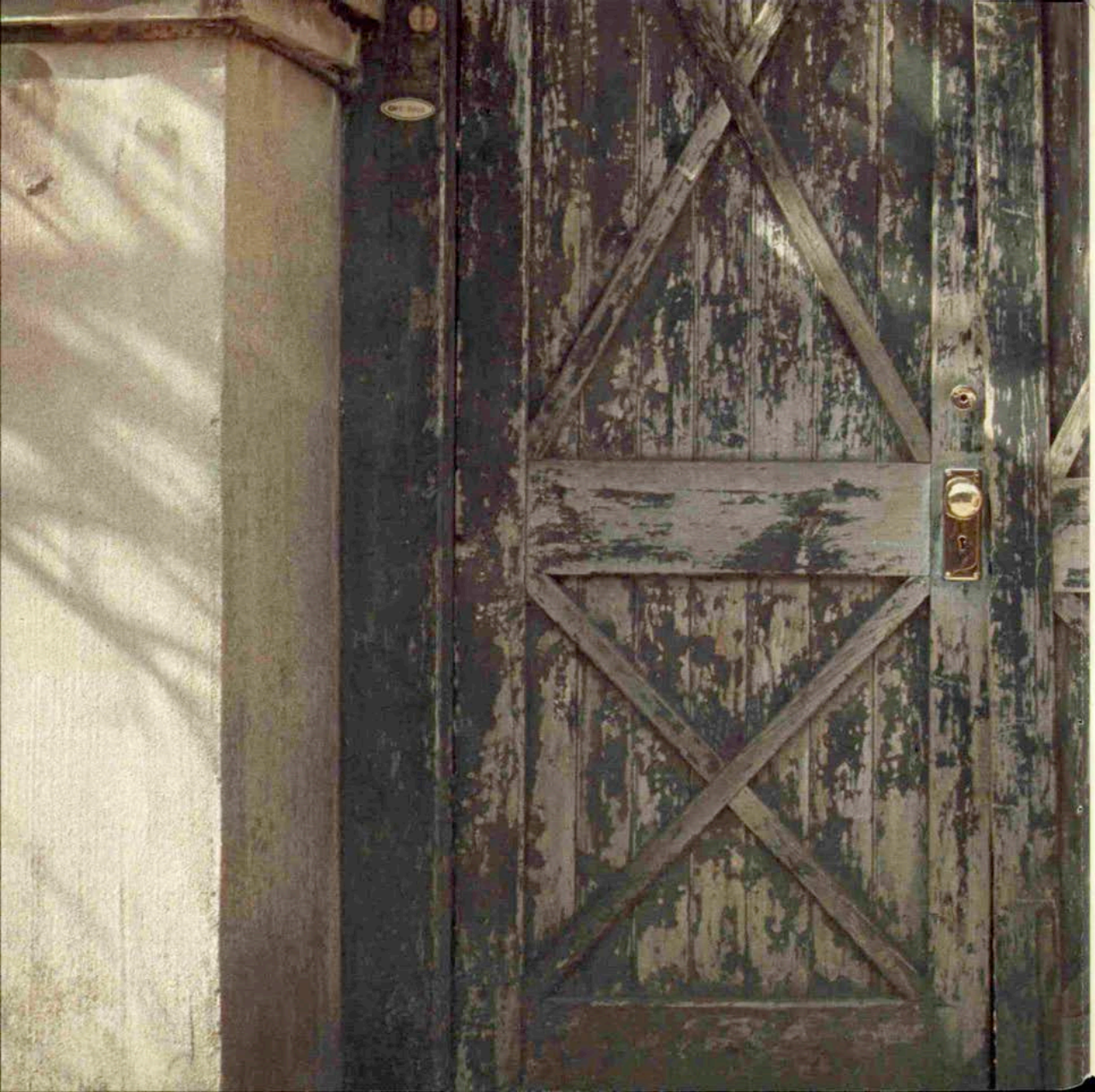
この上からミナトが見下ろせれば、なつかしい川西英さんの初期の版画の世界であると思いながらこんどは石ころの小径に入ってゆく。

神戸のディテール

Detail of KOBE〈33〉

石阪　春生
写真／杉尾友士郎





New life lady in Kobe

英語で育った現代っ子

守広 和子さん

〈甲南大学 法学部卒〉

子供の頃ニューヨークで4年間位過ごした。それは言葉を覚える年頃。だから日本に帰ってきた当時は言葉が通じなくて困ったらしい。海外旅行によく出かけるそうだが、行先もアメリカ、或いはアメリカ的なところ。すべてアメリカに志向してしまう。広告の勉強でアメリカ留学を考えているそうだが、「アメリカへ行くのではなくて、帰るのです」と言って笑う。

《ナッツケーキ》

お菓子のコトブキ
神戸・大阪・京都・東京

春のたそがれ
微笑む真珠

■阪急御影の静かな優雅な
金子真珠＜御影サロン＞で
春のパールをお選びください。

3月の展示会お知らせ

ネックレス・フェア

3月24日〈水〉→30日〈火〉

――真珠×宝石――

金子眞珠

御影サロン

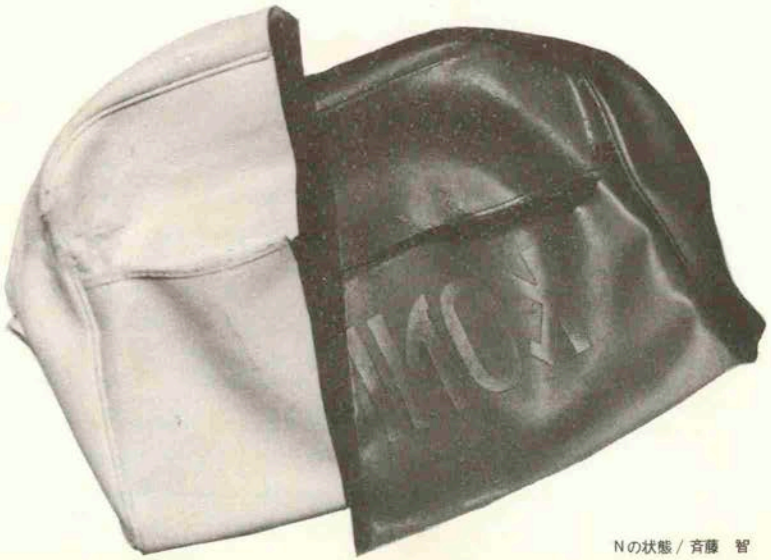
神戸市東灘区住吉町堂ノ本1824 〒658
Tel 078〈811〉2819

POETIQUE
KOBE
まさ
■大阪 千里阪急地下街店
阪急ファイブ店
西武百貨店
■宝塚 阪急ファミリーストア店

3月　目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

表紙／小磯良平
セカンドカバー／中西　勝
7　神戸っ子'76／第五回ブルーメール賞受賞者／小石忠男／三宅武／花柳芳東斉藤　智
14　神戸の中の情景〈3〉／文・林田重五郎／絵・小松益喜
16　神戸のディテール〈33〉／石阪春生／カメラ・杉尾友十郎
23　わたしの意見／白川　渥
24　第五回ブルーメール賞発表
27　随想／神戸っ子出版十五周年に寄せて／古林喜楽／瀬川勝二／竹馬準之助
32　吉川　進
34　連載随想〈3〉／河上丈太郎と阪本　勝／久山　康
36　ずいそう／南米の旅／新谷秀夫
キャンペーン／ファッション都市神戸を考える〈8〉
ファッション都市とショッピングエリア／坂野通夫／岸野利男／渡辺利武
吉岡　潔／小林新二／増本直美
ある集いその足あと／K・F・S
44　経済ポケットジャーナル
47　ブルーメール賞選考座談会
48　美術部門／赤根和生／乾　由明／増田　洋
文学部門／竹中　郁／小林武雄／杉山平一
音楽部門／吉村一夫／柴田　仁／小石忠男
51　古典芸能部門／沼禅雨／富田順三／佐野遵箕
55　技術ジャーナル〈105〉／諸岡博熊
58　ファッションスポット
68　ある集い／K・F・S
70　アンド神戸〈3〉／鳳　蘭／カメラ・小山　保
75　コウベスナップ
76　神戸の催し物ご案内〈3月〉
82　人間模様〈第二回〉／中内　功／文・重森　守
107　動物園飼育日記〈117〉／亀井一成
108　話題のひろば
112　神戸を福祉の町に〈27〉／橋本　明
117　ファッションレポート〈2〉／井本ちず子
118　KFSニュース
120　神戸の集いから
122　さあうたいましょう／岡田　淳
125　ニューヨークからの便り〈31〉／竹田洋太郎
126　淀長立見席〈50〉／淀川長治
128　女体百景〈44〉／H・ジュニア／絵・浅野俊一
130　ぴっといん
132　神戸百店会だより
134　ポケットジャーナル
137　神戸っ子トラベルコーナー
138　ひとり歩きのためのヨーロッパの美術館〈2〉
143　巨人ごカソ追跡作戦〈中〉／伊藤　誠
144　連載小説　播州路〈3〉／福元早夫／絵・山本文彦
148　トーク&トーク
153　ボエムドコウベ／安水稔和／カメラ・藤原保之
164　海船港／ソ連の客船「ショータルスタベリ」号
166　カメラ／米田定蔵／藤原保之／山口　清



Nの状態／斉藤　智

結婚式・ご披露宴は

オリエンタルホテル

≪感激≫

神戸で挙式をしてよかった
オリエンタルで披露宴をして
よかった……。
そう思っていただけるよう
ホテルを挙げて努力してい
ます。

●六甲オリエンタルホテルも
ご利用下さい。

お問合わせ・お申し込みは

オリエンタルホテル

宴会課☎(078)331-8111 内線250・260

☆私の意見

神戸の背山をデザインしよう

白川　渥
〈作家〉

二月十五日―早朝から「神戸市少年団耐寒集中登山」に参加した。世界の最高峰、エベレスト初登頂に成功した、ヒラリー隊のメンバーである、テンシン・ノルゲイさん夫妻もご一緒していたので実に楽しかった。

修法ケ原で登山に参加した一万人の大合唱が山にこだまするのを聞くと神戸という町はなんと恵まれた環境なのだろうと改めて思いを深くしたことである。

神戸市は人間環境都市を宣言しているが、本当に、こんなに手近なところで自然に親しめる町はほかにないだろう―大宰治の言葉に「富士には月見草がよく似合う」ということを言っているが「神戸は朝日がよく似合い、夕日もよく似合う町」ということをもっと知るべきだ。

私はいつも「神戸の裏山をもっとカラフルにデザインしよう」といっている。

例えば、垂水に櫨谷という地名があったり、布引のゴルフ場の辺りに櫨の大木の原生林があったり、紅葉谷という名が残っていたりする。だから、六甲山はきっと楓や櫨の木に合う土質をもったところだと思う。

これは私の提案なのだが「町から見える六甲山の山並みに楓や櫨を植えよう」ということ、一〇〇万本も植えればどれ程奇麗だろうと思う。やって出来ないことではない。もし、京都の嵐山のような樹に育てば、全山、唐紅ないに包まれる。豪華絢爛の眺望が楽しめるようになるだろう。神戸に住む神戸っ子が神戸を愛するなれば、神戸の裏山こそ大切にしなければならない。

それも、山に木を樹えるとき、松、杉など緑の木だけにたよらず、むしろ妙な固定観念は捨て去るべきだと思う。そして、市民の運動として推進すれば、それこそ、美しい環境を育てることが出来る。

紅や朱だけでなくともいい、黄色く色づくものがあってもより美しいだろう。―町を美しくするのだから地主に迷惑をかけないような配慮が必要なことだが―。

神戸っ子よ背中を見よ、そして、背山を彩色しよう。

★月刊「神戸っ子」15周年記念文化賞

ブルー・メール賞

第5回受賞者発表　〈副賞各部門拾万円〉

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十五周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と深く感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第五回「ブルー・メール賞」（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の四人の方々に賞（彫刻家新谷琇紀氏による海の女神のブロンズ像）をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に十万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

美術部門

斉藤　智

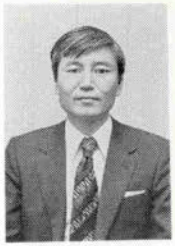
〈造形〉

選考委員　赤根和生・乾　由明・増田　洋

物質への訣別を遂げた斉藤は、ものと空間、手とものの虚実〈関係〉を見据えつつ〈見る〉〈描く〉とは何か？の原点への絶えざる問いかけに賭ける。冷徹なレンズによって捕えられた映像や、ときに手わざの痕跡の底に光る〈創造〉の眼の〈純粋〉を推す。

（赤根）

文学部門



三宅　武

〈詩人〉

選考委員　竹中　郁・小林武雄・杉山平一

三宅武さんのコトバは明快で、豊かな生活感情にみち、詩は読んで面白い。コトバが、ヒトが、自然が蝕まれる情況の中で、日常置き去りにされそうな矛盾を切りとって卓上に置き、みんなの前で手料理の味をみせる。いつも弱者の側におって、無名にちかい彼のような詩人が、いま選び出されたことに、私は現代の詩がもつ大きな意義と課題を深く感じている。

（小林）

音楽部門

小石忠男
〈音楽評論家〉

選考委員　吉村一夫・柴田　仁・小石忠男

小石氏の評論活動は大きく評価しなければならないとつねづね考えていた。殊に最近の氏の文章には氏自身が表現されてきた。その歩んできた成果が『世界の名指揮者』の二巻であり、氏の将来の飛躍が充分期待できる著である。氏は本賞の選考委員の一人ではあるが、今年度の受賞に価する活躍をみせたのは氏以外にいなかった。（吉村）

古典芸能部門

花柳芳叟
〈邦舞家〉

選考委員　沼艸雨・佐野漣箕・富田順三

舞踊家である以上古典が踊れないとその資格はない。吉叟さんは古典の他に創作舞踊、民踊にまで幅は広い。今回の受賞は昨年のリサイタルが対象となったが、さらにこれまでの道に自信をもつと共に謙虚に県舞踊協会の起爆剤として力強く地域社会に深く根をおろした活躍と前進を期待し確信する。（佐野）

★副賞協力会社ご紹介

株式会社　淡路屋
財団法人　井植記念会
石野証券株式会社
ウシオ工業株式会社
オールスタイル株式会社
カネボウベルエイシー㈱
河野護謨工業株式会社
株式会社　神戸製鋼所
株式会社　神戸製鋼所
株式会社　角南商事株式会社
株式会社　そごう神戸店
株式会社　大丸神戸店
株式会社　太陽神戸銀行
田崎真珠株式会社
バンドー化学株式会社
株式会社　ワールド

〈五十音順〉

★選考についての各部門座談会を本誌四八頁より掲載いたしております。

THE KOBECCO 15

月刊神戸っ子15周年記念プログラムごあんない

●月刊神戸っ子15周年出版記念会

3月29日(月) 6:00PM受付 6:30PM開会 於/オリエンタルホテル/ブルーメール賞受賞式ほか

●神戸酒祭り

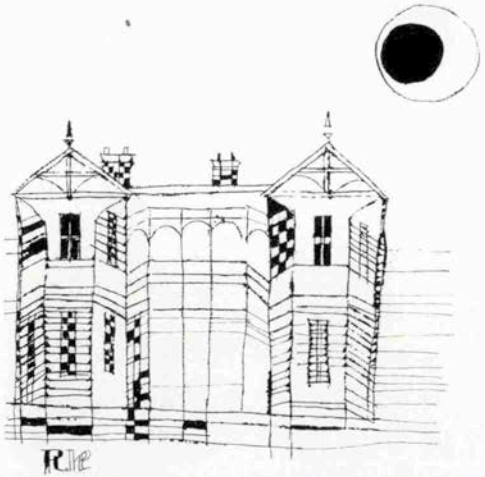
4月22日(木) 5:30PM受付 6:00PM開会 於/サンボーホール/主催・月刊神戸っ子 後援・灘五酉会

会　費 3,500円

●月刊神戸っ子15周年記念講演会

4月30日(金) 5:30PM開場 6:00PM開演 於/神戸文化大ホール/楠本憲吉・朝比奈隆・淀川長治

入場料 1,000円



★お問合せ/お申込み

月刊「神戸っ子」編集室

☎078(331) 2246